

令和6年5月下旬の果樹病虫害巡回調査結果概要について

【東北信】 巡回日 5月23、27日

1 りんご（16ほ場）

- (1) うどんこ病の発生は、北信地域の1ほ場でみられ、発病花そう率は1.7%であった。
- (2) 黒星病の発生はみられなかった。
- (3) 斑点落葉病の発生は、北信地域の2ほ場でみられ、発病葉率は0.2~0.3%であった。
- (4) 腐らん病の発生は、胴腐らんが東信地域の2ほ場（わい化樹）で、枝腐らんが北信地域の2ほ場（普通樹）でみられた。
感染拡大を防ぐため、早期発見と病斑の除去を徹底するとともに、殺菌剤は枝幹に十分かかるように心がける。
- (5) キンモンホソガの寄生葉（果そう）はみられなかった。
- (6) ハダニ類の寄生はみられなかった。

2 ぶどう（11ほ場）

- (1) うどんこ病、べと病、灰色かび病、黒とう病の発生はみられなかった。
- (2) べと病をはじめ、晩腐病等多くの病害防除において、最も重要な時期となるので、薬剤が穂軸や新梢先端の葉にも十分かかるように心がける。

3 もも（7ほ場）

- (1) せん孔細菌病は、東信地域及び北信地域の全てのほ場で発病葉がみられ、発病葉率は0.3~2.0%であった（図1）。
今後も園内をよく点検し、枝病斑の除去や薬剤防除を行う。果実への感染防止のため、早めに袋掛けを行う。
- (2) モモハモグリガの被害葉はみられなかった。
- (3) アブラムシ類の寄生はみられなかった。
- (4) クビアカツヤカミキリの寄生はみられなかった。
- (5) モモヒメヨコバイの寄生はみられなかった。



図1 モモせん孔細菌病の発病葉（北信地域）

4 うめ（2ほ場）

- (1) かいよう病の発生は、みられなかった。
- (2) クビアカツヤカミキリの寄生はみられなかった。
- (3) モモヒメヨコバイの寄生はみられなかった。

【中南信】 巡回日 5月中旬調査：5月16日（なし：二十世紀）

5月下旬調査：5月22、23、24、27、30日

1 りんご（11ほ場）

- (1) うどんこ病の発生はみられなかった。
- (2) 黒星病、斑点落葉病の発生はみられなかった。
- (3) 腐らん病の発生は、枝腐らんが中信地域の1ほ場でみられた。
- (4) キンモンホソガの寄生葉（果そう）はみられなかった。
- (5) ハダニ類の寄生はみられなかった。

2 なし（9ほ場）

- (1) 赤星病の発生はみられなかった。
- (2) 黒星病の発生はみられなかった（調査対象品種：幸水）。
- (3) 黒斑病の発生はみられなかった（調査対象品種：二十世紀）。
- (4) アブラムシ類の発生は、南信地域の1ほ場でみられ、寄生新梢率3.3%であった。
- (5) ハダニ類の寄生は、リンゴハダニはみられなかったが、ナミハダニは中信地域の1ほ場でみられた。

3 ぶどう（6ほ場）

- (1) うどんこ病、べと病、灰色かび病、黒とう病の発生はみられなかった。

4 もも（3ほ場）

- (1) せん孔細菌病の発病葉はみられなかった。
- (2) モモハモグリガの被害葉はみられなかった。
- (3) アブラムシ類の寄生はみられなかった。
- (4) クビアカツヤカミキリの寄生はみられなかった。
- (5) モモヒメヨコバイの寄生はみられなかった。

5 うめ（2ほ場）

- (1) かいよう病の発病枝はみられなかった。発病果は南信地域の1ほ場でみられ、発病果率は0.2%であった。
- (2) 黒星病の発病果はみられなかった。

【侵入警戒調査（果樹）】

- (1) りんご、なしの調査ほ場において、火傷病、コドリングアの発生はみられなかった。
- (2) もも、うめの調査ほ場において、ウメ輪紋ウイルスの発生はみられなかった。

【昨年度に県内で初確認されたモモヒメヨコバイの発生状況調査】

昨年度にモモヒメヨコバイの発生が初確認された南信地域（南信州地域・木曾地域）のほ場等（巡回調査ほ場以外）において、5月中下旬に発生状況を調査した。

調査の結果、ハナモモ葉ではモモヒメヨコバイの寄生及び吸汁痕がみられたが、近隣の樹園地、茶畑では虫体の寄生及び明瞭な吸汁痕はみられなかった。